

2 0 2 0 年 度 事 業 報 告 書

NPO法人しぶたね

I 事業期間

2020年4月1日から2021年3月31日まで

II 事業の成果

今年度は、新型コロナウイルスの状況を注視しながらの事業運営を強いられ、対面イベント開催等については非常に制約の多い一年となったが、オンラインでの講演やイベント開催など、新たな手法を獲得することもできた。これにより、きょうだいとも、支援者の人たちとも気軽につながれる機会を増やすことができ、事業の幅を広げることができた。

より困難な状況に直面しているきょうだいへのサポート活動については、5月から開始したオンラインミニ企画を継続できており、いつでも気軽に来られる場所として定着してきている。それでもやはり、実際に会いたいという声も根強く、比較的感染状況が改善した時期に対面での小学生向けワークショップを実現できたことも大きな喜びであった。病院活動については未だ病院から許可が下りず、再開の目途が立たない状況だが、距離をとったり接触を減らしながらあそぶ方法や衛生管理の手法も徐々に確立されてきていることから、あきらめずに日々更新される情報を注視し、活動が再開できた時の準備を整えつつ新たな方法も模索していきたい。

啓発事業については、当初は講演の予定が中止になることが多かったが、急速にオンラインイベントが浸透していったことに伴い、年度中盤以降は登壇の機会も増え、全体の講演回数も概ね横這いとなった。シブリングサポーター研修ワークショップも同様で、年度中盤以降はオンラインの体制を整え、対面1回を含めて4回開催。例年には及ばなかったものの、新たなシブリングサポーターが97名誕生して合計913名となり、年間目標である100人増をほぼ達成することができた。また、オンライン会議の普及により、全国のシブリングサポーターが定期的かつ気軽に集える場の設定が可能となり、サポーター同士のつながりに継続性を付加することができた。年に一度のシブリングサポーターミーティングにおいては、きょうだい支援を広める会さんのご協力のもと、米国のきょうだい支援実践者にもご講演いただくことが実現し、今後のネットワーク拡充に向けても可能性が感じられた。

2年目となった4月10日のシブリングデーには、ニモカクラブさんにお声がけいただいて歌って踊るオンラインイベントを行い、その後の活動全般へのオンラインツール導入にもつながった。昨年度末に準備した啓発キャンディーの配布や郵便局へのポスター掲示も全国に展開することができ、各地のきょうだいや支援者の方々が SNS に投稿するなど盛り上げてくれた。来年度のシブリングデーに向けても、オリジナルチョコの製作や各地の支援者との動画の共同制作にチャレンジしている他、様々なきょうだい会や医療・福祉機関がこの日に合わせたイベント等を計画してくださっており、いろんな形で活用される記念日として確実に広がっている。

新規事業としては、米国で行われているシブリングパネルを参考に、大人になったきょうだいの声を聴く会「シブパネル」に取り組んだ。自身の経験を話してくれるきょうだが増えている中、貴重な語りやそこに至るまでの勇気が大切に扱われていないことも多く、そこへの危機感から始まったこの事業も、各地のきょうだいやアドバイザーのご協力をいただきながら、何とか2度の対面開催を行うことができた。人の人生を聴かせていただくということは非常に奥が深く、事業を進めるほど新たな課題に突き当たるが、来年度も引き続き話し手の安心安全を追求していきたい。

Ⅲ 事業の実施状況

1. きょうだいサポート事業

(1) きょうだいのためのワークショップ「きょうだいさんの日」の開催

【内 容】 きょうだいに集まってもらい、安心して過ごせる空気の中であそんだり、おかし
のくじ引きをしたり、親子でふれ合うなどのワークショップを行った。5月の連休
からは、オンラインミニ企画「シブレットのへやのとびら、あけておくね」を開始、
その後も週1回のペースで継続し、計51回開催した。

【実施時期・場所・参加きょうだい人数】

- | | |
|--|-------|
| ① 8月1日(土) オンライン(ばるけ、SHAMS 合同) | 4名 |
| ② 8月8日(土) オンライン(中学生以上対象) | 3名 |
| ③ 8月30日(日) 名古屋大学医学部附属病院(オンラインゲスト参加) | |
| ④ 10月18日(日) ドーンセンター | 5名 |
| ⑤ 10月31日(土) オンライン(ばるけ、SHAMS 合同) | 4名 |
| ⑥ 12月6日(日) オンライン(おかしの家つくろう) | 16名 |
| ⑦ 12月12日(土) オンライン(中学生以上対象) | 3名 |
| ⑧ 3月7日(日) ドーンセンター | 6名 |
| ⑨ 3月21日(日) 名古屋大学医学部附属病院(オンラインゲスト参加) | |
| ⑩ オンライン企画「シブレットのへやのとびら あけておくね」
5月2日(土)～5月6日(水) その後毎週金曜日 | 1～12名 |

【対 象 者】 病気をもつ子どものきょうだい

【収 益】 なし

【費 用】 434,190円(給料手当120,000円、法定福利費23,273円、通信運搬費98,906円、
消耗品費112,263円、賃借料77,948円、保険料1,800円)

(2) 面会中の親を病院の廊下で待つきょうだいと過ごす活動

【内 容】 親が入院中の子どもの面会に行く際、感染の問題から自由に病棟に入ることが
できず、廊下で待っているきょうだいと、おもちゃなどであそぶ活動だが、現在は
病院に立ち入る許可が下りず休止中。オンライン企画は案内している。

【実施場所】 大阪市立総合医療センター7階廊下

【実施時期】 毎月2回目、4回目の火曜日 18時～20時(現在は休止中)

【対 象 者】 病院に入院している子どものきょうだい

【収 益】 なし

【費 用】 154,751円(給料手当120,000円、法定福利費23,273円、消耗品費11,478円)

(3) きょうだいサポート冊子の作成・配布

【内 容】 きょうだいと大人とで読んだり書き込んだりできる小冊子「きょうだいさんのた
めの本」、病気のきょうだいを亡くした子ども向けの「きょうだいさんのための本②」
を配布。今年度は①を10,000部、②を5,000部増刷し、累計発行部数は
それぞれ47,000部、40,000部の計87,000部となった。

【実施場所】 事務局より発送

【実施時期】	随時
【対象者】	きょうだい、きょうだいに関わる人
【収 益】	なし
【費 用】	529,296 円（給料手当 120,000 円、法定福利費 23,273 円、印刷製本費 293,675 円、 通信運搬費 88,839 円、消耗品費 3,509 円）

2. 啓発事業

(1) 講師派遣、寄稿等事業

【内 容】 きょうだいの現状及び支援の必要性を広く訴えるため、要請に応じて講師の派遣や各種発行物への寄稿、各種メディアの取材対応を行った。

【実施時期・場所】

・講演

- ① 5月19日（火）武蔵野大学 社会福祉実習講義
- ② 6月21日（日）こどもホスピス・小児緩和ケア人材育成プログラム in 横浜
- ③ 7月2日（火）神戸女学院大学 NPONGO論
- ④ 7月28日（火）がんばりっこ仲間 専門職応援団といっしょ♪
- ⑤ 8月23日（日）TSURUMI こどもホスピス パブリックデイ
- ⑥ 8月28日（金）武蔵野大学 社会福祉代替実習
- ⑦ 9月4日（金）武蔵野大学 社会福祉代替実習
- ⑧ 9月5日（土）グリーフサポートせたがや 響き合うグリーフ
- ⑨ 9月11日（金）武蔵野大学 社会福祉代替実習
- ⑩ 9月13日（日）特定非営利活動法人ダウン症ファミリー総合支援 めばえ21
- ⑪ 9月18日（金）武蔵野大学 社会福祉代替実習
- ⑫ 9月19日（土）有限会社しえあーど 誰もが暮らせる地域づくりフォーラム
- ⑬ 9月20日（日）こどもホスピス・小児緩和ケア人材育成プログラム in 横浜
- ⑭ 9月25日（日）武蔵野大学 社会福祉代替実習
- ⑮ 10月4日（金）武蔵野大学 社会福祉代替実習
- ⑯ 10月9日（金）武蔵野大学 社会福祉代替実習
- ⑰ 10月11日（日）こどもホスピス・小児緩和ケア人材育成プログラム in 旭川
- ⑱ 10月15日（木）子ども療養支援士オンライン実習
- ⑲ 11月8日（日）栃木県小児在宅医療体制構築事業研修会
- ⑳ 11月9日（月）神戸大学子ども教育学科
- ㉑ 11月28日（土）こどもホスピス・小児緩和ケア人材育成プログラム対談
- ㉒ 11月29日（日）こどもホスピス・小児緩和ケア人材育成プログラム in 名古屋
- ㉓ 12月12日（土）立正大学 社会福祉実習
- ㉔ 12月22日（火）神戸女学院大学 社会福祉学ゼミ
- ㉕ 1月21日（木）大阪府立支援学校 PTA 協議会研修会
- ㉖ 1月22日（金）フィランソロピー協会 誕生日寄付ミニセミナー
- ㉗ 1月23日（土）関西国際大学 病弱者の心理・生理・病理
- ㉘ 1月30日（土）特定非営利活動法人レスパイトケアサービス 萌

- ②⑨ 2月9日(火) 横浜市立大学附属病院 きょうだい児支援講演会
- ③⑩ 2月23日(火) かけはしねっと 第2回いばらき小児在宅シンポジウム
- ④⑪ 2月27日(土) きょうだいのいつもは話せない気持ち (オンライン配信)
- ⑤⑫ 2月28日(日) グリーフサポートせたがや ファシリテーターの集い
- ⑥⑬ 3月7日(日) さくらの会 Web 講演会
- ⑦⑭ 3月7日(日) NPO 法人日本ホスピタル・プレイ協会
- ⑧⑮ 3月13日(土) 一般社団法人 Burano 多職種研修会
- ⑨⑯ 3月14日(日) 父子の会 「きょうだい」の育ちと気持ち
- ・ 寄稿、出演など
 - ① 4月28日(土) 朝日新聞(「ひと」欄)
 - ② (株)三輪書店「地域リハビリテーション」7月号
 - ③ (株)へるす出版「小児看護」9月号
 - ④ 9月6日(水) 読売新聞(大阪ひと語り)
 - ⑤ 10月3日(土) NHK ラジオ深夜便(個人インタビュー再放送)
 - ⑥ 10月13日(火) 河北新報(活動紹介)
 - ⑦ 10月13日(火) 福井新聞(活動紹介)
 - ⑧ 10月14日(水) 山梨日日新聞(活動紹介)
 - ⑨ 10月16日(金) 秋田魁新報(活動紹介)
 - ⑩ 10月20日(火) 中国新聞(活動紹介)
 - ⑪ (株)へるす出版「小児看護」10月号
 - ⑫ 12月15日(火) 100YES - special interview site -
 - ⑬ 医学書院「訪問看護と介護」2月号
 - ⑭ 3月19日(月) 毎日新聞(「聞いて」欄)
 - ⑮ 3月22日(月) 読売新聞(コメント)
 - ⑯ 阪急阪神ホールディングス(株) SDGs トレイン車内広告掲載
- ・ ブース出展等
 - ① 4月10日(水) イオンイエローシートキャンペーン店頭 PR
 - ② 4月28日(日) 知ることで守ろう子どものいのちと笑顔
 - ③ 6月1日(月)～3月31日(水) 日本フィランソロピー協会 誕生日寄付
 - ④ 10月1日(木)～12月20日(日) 大阪ガス つながるガステん
 - ⑤ 10月31日(土)、11月1日(日) ロハスフェスタ万博
 - ⑥ 2月16日(火)～19日(金) 阪急百貨店 H2O サンタ NPO フェスティバル
 - ⑦ 3月1日(月)～ 大阪ガス Social Design+
 - ⑧ 3月20日(土)、21日(日) 日本助産学会学術集会

【対象者】	保健所、患者会、学校、病院、支援団体など
【収益】	1,182,595円(講師料等)
【費用】	232,763円(給料手当207,800円、法定福利費23,273円、印刷製本費1,690円)

(2) シブリングサポーター養成事業

【内 容】 きょうだいの現状及び支援の必要性を理解し、必要なスキルを習得した人材を育成するため、テキストを用意して研修を行い、修了者を「シブリングサポーター」に認定。さらに、修了者を対象にした「シブリングサポーターミーティング」を開催し、サポーター同士の情報交換や意識の共有を行いつつ互いに励まし合い、ともにきょうだいを応援する仲間の存在を確認できる場を設けるとともに、今年度からは、さらに気軽につながる「きょうだい支援ゆるゆる会議」を概ね月1回のペースで実施。また、本事業をさらに普及させるための案内リーフレットを3,000部作成し、全国の病院、訪問看護ステーションなど1,021か所に送付した。

【実施時期・場所・参加人数】

- ・シブリングサポーター研修ワークショップ
 - ① 9月26日(土) ドーンセンター 22名
 - ② 10月4日(日) オンライン(京都中心) 22名
 - ③ 12月10日(木) オンライン(山形中心) 13名
 - ④ 3月20日(土) オンライン(埼玉中心) 40名
- ・シブリングサポーターミーティング
 - 10月10日(土) オンライン(きょうだい支援を広める会と合同) 9名
- ・きょうだい支援ゆるゆる会議(すべてオンライン)
 - ①7月4日(土) 29名、②7月25日(土) 42名、③8月30日(日) 32名
 - ④9月27日(日) 26名、⑤11月22日(日) 18名、⑥12月28日(月) 20名
 - ⑦1月30日(土) 23名、⑧2月21日(日) 15名、⑨3月20日(土) 25名
- ・リーフレット作成会議
 - 第1回: 5月30日(土)、第2回: 6月13日(土)、第3回: 10月23日(金)

【対象者】 病院スタッフ、学生、きょうだい支援に関心のある一般市民

【収 益】 214,000円(研修参加費)

【費 用】 1,215,608円(給料手当400,000円、法定福利費23,277円、諸謝金376,210円、印刷製本費166,418円、旅費交通費4,780円、通信運搬費126,517円、消耗品費55,406円、賃借料62,100円、保険900円)

(3) シブパネル開発事業

【内 容】 大人になったきょうだいが自身の経験を話してくれる機会が増えている中、その語りや思いの扱われ方による話し手の傷つきを防ぎ、できれば人生を肯定されたと感じられるような安心安全の場の開発を目指して開始。今年度は、5回の会議を経て2度のシブパネルを試行し、暫定版のガイドラインを作成した。

【実施時期・場所・参加人数】

- ① 8月29日(土) ドーンセンター 14名
- ② 11月15日(日) 東京ボランティア・市民活動センター 22名

【打合せ会議等実施状況】

- ① 4月24日(金) 小さいのち ヒアリング(オンライン)
- ② 4月26日(日) キックオフミーティング(オンライン)

- ③ 5月31日(日) 全体ミーティング(オンライン)
- ④ 8月22日(土) 大阪シブパネル打合せ(オンライン)
- ⑤ 11月8日(日) 東京シブパネル打合せ(オンライン)

【収 益】 24,000円(参加費)

【費 用】 1,384,825円(給料手当480,000円、法定福利費46,546円、諸謝金520,000円、印刷製本費24,190円、旅費交通費139,984円、通信運搬費13,232円、消耗品費151,297円、賃借料9,576円)

(4) シブリングデー啓発キャンペーン

【内 容】 今年度はオリジナルキャンディー10,000個の配布と全国100か所の郵便局での啓発ポスター掲示を行い、4月10日の当日にはオンラインイベントを実施した。来年度に向けては、以下の3本立てのキャンペーンを展開中。

① バーチャル背景みんなで使おうプロジェクト

オンラインでの会議や研修が急速に普及したため、様々な場所で使うことでシブリングデーを周知してもらうべく、オリジナルデザインのバーチャル背景を作成、公開した。

② シブリングデーチョコ製作プロジェクト

全国のきょうだいに記念の品物を渡せるように、製作費用を広く募集して2組のオリジナルチョコを製作。募集に応じてくれた団体や個人を通じて全国のきょうだいに1,500セットが届けられた。

③ シブリングデー動画作成プロジェクト

「きょうだい支援ゆるゆる会議」でシブリングデーを盛り上げるアイデアを出し合ったところ、本プロジェクトが始動することとなった。CafeAobaさんが編集に手を上げてくださり、来年度の4月10日公開に向けて各地のきょうだい会等がメッセージ動画を作成してくれている。

【イベント実施時期・場所】

4月10日(金) オンラインで歌って踊ろう

【収 益】 なし

【費 用】 499,849円(給料手当100,000円、法定福利費23,273円、通信運搬費97,807円、消耗品費278,769円)

IV 社員総会の開催状況

第4回通常総会

【日 時】 2020年5月30日 14時00分から15時00分まで

【場 所】 大阪府大東市南津の辺町17-36 NPO法人しぶたね 事務局

【社員総数】 11名

【出席者数】 11名(うち電磁的記録による表決者数1名)

【内 容】 第1号議案 2019年度事業報告書承認の件 審議の結果、全員一致で可決承認
第2号議案 2019年度決算承認の件 審議の結果、全員一致で可決承認

V 理事会その他の役員会の開催状況

第4回理事会

【日 時】 2020年5月30日 13時00分から14時00分まで

【場 所】 大阪府大東市南津の辺町17-36 NPO法人しぶたね 事務局

【役員総数】 6名

【出席者数】 6名

【内 容】 第1号議案 2019年度事業報告書承認の件 審議の結果、全員一致で可決承認

第2号議案 2019年度決算承認の件 審議の結果、全員一致で可決承認

第3号議案 2020年度事業計画書承認の件 審議の結果、全員一致で可決承認

第4号議案 2020年度予算承認の件 審議の結果、全員一致で可決承認

第5号議案 役員任期満了につき改選の件 審議の結果、全員一致で可決承認

第6号議案 理事長及び副理事長選定の件 審議の結果、全員一致で可決承認